



# にじのはし幼稚園 園だより



令和3年7月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 石川典子

曇り空の合間に、お台場の広い空に湧き昇る入道雲から、夏の兆しを感じます。

先日、保護者や地域の方のご協力により、にじっこまつりを開催していただき、子どもたちは大喜びでした。コロナ対応のため、密を避け、学年ごとに園庭のお店を回りました。

係の保護者や地域の方に優しく関わってもらいながら、自分がしたいことや考えていることを安心して伝え、保護者や地域の方の話を聞きながら、まつり体験をしました。遊びコーナーでおもちゃをいただくと、意気揚々と先生に見せ、先生から声を掛けられ、表情がより生き生きとしました。

体験を通して味わった感情を「先生に伝えたい」と思い、表出し、気持ちを受け止めてもらうことで満足感につながったようです。心躍る体験や、一人ひとりの感性を大切に思いを受け止めてくれる大人の存在により、子どもたちは感じたことを自分なりに表そうとします。私たち大人は、幼児の素朴な表現を丁寧に受け止めていきたいものです。

また、おもちゃすくいコーナー担当の地域の方から、「お子さんによって、金魚がいいという子もいれば、金魚はやだという子もいる。同じ動物を集めたり、色違いで集めたり、お子さんによって様々ですね。どの子も、自分でよく考え、選んでいるところがいいですね」とお言葉をいただきました。

その時、担任時代のある出来事を思い出しました。絵本を借りた幼児に、「この絵本、家にあるでしょ」「先週も借りたでしょ」など保護者が声を掛け、幼児ががっかりした表情をしたことです。保護者にとっては、『家がない』『借りたことのない』絵本がよい』との思いだったのでしようが、それは大人の感覚で、子どもにとっては、「自分が大好きな絵本をまた借りたい」という気持ちがありました。大人がよかれと思ったアドバイスが、子どもの気持ちと離れると、子どもは親の顔色を気にし、親の思いに合わせて行動しようとするようになります。次第に自分の気持ちに正直に行動することができなくなり、意欲が低下し、自分で選ぶ・決めることができなくなります。

今年度の本園の研究テーマは、「気付き、考え、行動する にじっ子の育成」とし、『自立心』や『思考力の芽生え』を視点に研究を進めています。自立心とは、「自分で何でもできること」「他者に頼らないこと」ではなく、「自分がどうしたいか」「何をしたいかを大事にして、それを他者に伝え、互いによく頼りにし合う『関係』をつくっていくこと」です。小学校以降の学習にはもちろん、生きていく上で必要な力です。

我々教師も今一度、「教師が子どもにさせたいこと」を目的にするのではなく、子ども自身が、気づき、考え、決定し、行動するプロセスそのものを大切にすることを再確認し、口出し手出しをし過ぎず、子どもの体験を保障する保育実践に向け、1学期の指導を振り返り、2学期につなげていきます。

今学期も保護者の皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。よい夏休みをお過ごしください。

